

レジメン登録フォーマット

申請年月日	2020年10月22日	使用開始日	
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	三上 城太
レジメン名	S-1+CDDP(short hydration)(胃がん)(アプレビタントカプセル)		
疾患名	胃がん	適応の備考	short hydrationレジメンのため、適応患者の選定が必要 外来では採血と同時に前投薬を開始する。医師が面談し施行可であれば実施確認し、抗がん剤調製を開始する。採血等で中止の場合 は、前投薬施行分は別にオーダーする。 入院では通常の運用どおり、医師が投与可と判断した後に施行確定とする。
適応分類	進行再発	適応の備考	有効な限り コース 催吐性リスク 高度
1コース日数	35 日間	総コース数	1
抗がん剤投与量・投与日	シスプラチン60mg/m <sup>2</sup> day8, S-1 80mg~120mg/body 分2 day1-day21		
治療スケジュール・投与日程(投与日は●)	(day)		

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	~	35
1	主ルート	フィジオ140輸液500mL	1 本 / body	1 時間								●																						
	点滴静注	フィジオ140輸液500mL	1 本 / body	1 時間								●																						
終了時にアプレビタントカプセルを内服 採血と同時にフィジオ投与開始(外来)																																		
2	主ルート	フィジオ140輸液500mL	1 本 / body	1 時間								●																						
	点滴静注	硫酸Mg補正液1mEq/mL	4 mL / body	1 時間								●																						
3	側管	ハロ/セロ/注ハック0.75mg50mL	1 本 / body	15 分								●																						
	点滴静注	テキサド注射液6.6mg/2ml	1 本 / body									●																						
		テキサド注射液1.65mg/0.5mL	2 本 / body										●																					
4	側管	生食500mL	1 本 / body	1 時間								●																						
	点滴静注	シスプラチン	60 mg / m <sup>2</sup>	1 時間								●																						
シスプラチンと同量の生食を抜いてから混注する(合計500mLとする)																																		
5	主ルート	フィジオ140輸液500mL	1 本 / body	1 時間								●																						
	点滴静注	プロセミド注20mg	1 本 / body	1 時間								●																						
6	主ルート	フィジオ140輸液500mL	1 本 / body	1 時間								●																						
	点滴静注	フィジオ140輸液500mL	1 本 / body	1 時間								●																						
	経口投与	S-1	9999 mg / body		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		分2 朝夕食後																																
		(体表面積) 1.25m <sup>2</sup> 未満 80mg/day 1.25~1.5m <sup>2</sup> 未満 100mg/day 1.5m <sup>2</sup> 以上 120mg/day																																
	経口投与	アプレビタントカプセル	125 mg / body									●																						
		抗がん剤の投与1~1.5時間前に服用																																
	経口投与	アプレビタントカプセル	80 mg / body										●	●																				
		分1 朝食後																																
	経口投与	デカドロン錠	8 mg / body										●	●	●	●																		
		分2 朝食後																																

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。(例:Rp2とRp3を同時に投与開始する。)

【投与上の注意】

- ◆short hydrationレジメンのため、適応患者の選定◆
- 腎機能が維持されていること(血清Crが施設基準上限値以下かつCcr≥60mL/min、但し筋肉量に影響を受けるため高齢者は注意)
- ・飲水指示を理解できること 飲水指示等の指導は患者用指導リーフレットを用い医師が行う。
- ・心機能が保持されていること
- ・全身状態が良好であること(PS0~1)

シスプラチン:希釈は生食のみ。

シスプラチン:腎毒性軽減のためhydrationが必要、short hydrationレジメンのため、day8~10は1L/日以上の水分摂取を促す。◆day8はシスプラチン投与が終了するまでに1L程度の経口補液を促す。

S-1は、day1~day21まで服用、day22~day35 休業期間

・day9~12のデカドロン錠は、経口投与が困難な場合は注射薬での投与を検討する。

・day12のデカドロン錠は、状況に応じて投与の可否を選択できる。

アプレビタントカプセル:各コースにおいて、投与期間は3日間を目安とする。成人で5日間・12歳以上の小児で3日間を超えて投与した際の有効性及び安全性は確立していない。

アプレビタントカプセル:原則としてコルチコステロイド及び5-HT3受容体拮抗型制吐剤と併用して使用すること。

アプレビタントカプセル:抗悪性腫瘍剤の投与1時間~1時間30分前に投与し、2日目は降は午前中に投与すること。